Ⅰ　学校の概要

思考力等の育成モデル校事業　　多度津町立多度津小学校

◆児童数及び教員数

〇児童数

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年	特別支援	全　校
２学級 ３９名	２学級 ４７名	２学級 ５０名	２学級 ５６名	２学級 ４３名	２学級 ５１名	３学級 ５名	１５学級 ２９１名

〇教員数　　２３名

◆学校の特色

本校には素直で明るい児童が多く、互いに励まし合ったり認め合ったりすることができている。また、異学年同士のふれあい活動において、高学年が低学年の世話をし、低学年は高学年を慕うという互いを尊重し合う学校風土の中で、元気に学習や諸活動に取り組んでいる。ただ、１人１人に目を向けてみると厳しい家庭環境におかれた児童もおり、良い生活リズムを身に付けたり家庭学習を習慣化させたりすることなどへの個に応じた指導や支援、家庭との協力や連携が必要である。

さて、本校では研究主題を「日常生活に必要な基礎的な国語の能力を高める国語科学習を求めて　ー言語活動の充実を図る学習指導を通してー」として実践研究を進め、その研究成果を平成２６年度の香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会で発表した。昨年度は「思考力等の育成モデル校事業」の研究指定を受け、国語科学習指導の取組を他教科へも広げていこうと研究を進めているところである。

Ⅱ　研究主題等

研究主題

主体的に学習し、思考し、確かな学力をもつ児童を育てる〈2 年次〉

◆研究主題設定の理由

昨年度は「思考力等の育成モデル校事業」の研究指定を受け、確かな学力の向上に必要な思考力を育む授業改善を図るため「主体的な学びを目指した単元及び授業展開の工夫」と「思考を広げたり深めたりするための学び合いの工夫」の２つの視点を柱に設定して研究を進めた。研究授業の事前研修や事後研修では、課題の解決に向かわせるための見通しのもたせ方、学びを深めるための交流、学びの価値を見つけるための振り返り、新たな課題を見つけるための工夫などについて、教材分析や授業討議を熱心に行ってきた。また、思考ツールを活用することで、互いの考えが可視化かつ共有化でき、協働的な学びへと繋がっていく授業風景も見られるようになってきた。その中で、授業改善を進める上で対話的な授業を積み上げ、有効性を整理していくことが大切であることが確認できた。

今年度も「思考力等の育成モデル校事業」の研究指定を受けている。そこで、昨年度までの研究でその有効性が明らかとなった「学び合い」に焦点を当て、思考ツールの有効な活用を含め、効果的な学び合いの方法についてさらに実践研究を進めていきたいと考え、上記の主題を設定した。

◆研究内容及び方法

1　研究内容

（1）思考力等を育む授業改善に向けた取組

①主体的な学びを目指した単元及び授業展開の工夫

・「つかむ　→　つかう　→　くらべる　→　つなぐ　→　かえる」を意識した学習展開

・学びの価値を感じられる課題設定

・自分の変容に気付く振り返りの設定

・スモールステップでの確認とフィードバック

②思考を広げたり深めたりするための学び合いの工夫

・学び合いの目的や視点の明確化

・思考を顕在化し交流を豊かにする媒介物の活用

・思考を深める発問・助言、板書、ノート等の工夫

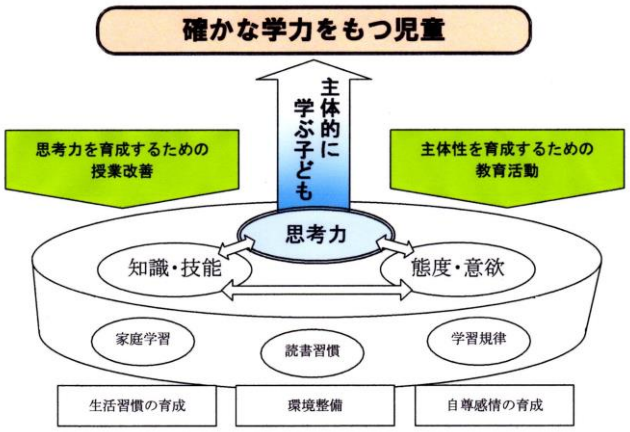
・学び合いを活性化させる形態の工夫と学び合う価値のある場の設定

③学び合いを支える学習基盤の確立

・基本的な学習規律の定着

・読書活動の推進

・家庭学習の習慣化



（2）主体性、自尊感情の育成に向けた教育活動の充実

①知育

・主体的で対話的な深い学びの推進

・自己学習力の向上を図る学習習慣の確立

・読書習慣の定着

②徳育

・基本的生活習慣の定着

・自尊感情を高め、他を思いやる心と態度の育成

・善いもの、美しいものに感じる心の育成

③健康

・健康を支えるよい生活習慣の育成

（3）家庭との連携の実効性向上

①授業とつないだ家庭学習や読書の推進

②学校便りをはじめ、各種通信による家庭教育の啓発、推進

2　研究方法

（1）研究主題に迫るための研究授業を行い、授業づくりや支援の在り方について全職員で検討する。

（2）授業改善に向けた日々の取組を振り返り、定期的に交流して成果と課題を明らかにする。

（3）知育、徳育、健康の三部会を中心に研究を進め、「思考力等を育む授業改善」「主体性、自尊感情の育成」に視点を当てた教育活動の計画、実践、評価を行う。

（4）主体的で対話的な深い学びの推進など、参考となる文献から、理論や実践の研究を行う。また、研究先進校の取組を参考にする。

（5）若年研修を行い、指導力の向上を図る。

Ⅲ　成果の評価計画（検証方法）

1　学力調査等の結果分析（県版テスト、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、ＱＵ調査等）
2　アンケート結果分析（児童対象(学習意欲、学習内容の習熟状況等)、保護者対象(家庭学習状況等)）
3　学校自己評価（知育・徳育・健康３部会による実践・検証・改善、学校関係者評価委員等）
4　「研究成果の参考とする１０の指標」に向けた取組の評価

Ⅳ　研究成果の普及方法

1　協同的な研究推進体制の充実
〇意図的な学校組織づくりによる OJT を機能させた学習指導力の継承
■現職教育主任を中心とした研究推進と指導教諭による若年指導
・知育、徳育、健康３部会と低、中、高学年団会
・全教員による年１回以上の提案授業の実施
・月１回（第３金曜）の若年研修会

2　研究授業等の公開
〇県内外教育関係者、学校関係者評価委員、保護者等
■授業公開日の設定
・公開授業（１年　算数科、６年　国語科）
・授業討議会（県内指導主事等）

3　外部講師招聘による研修の充実
〇学習指導への指導・助言
〇研修方法の改善に向けた指導・助言
〇日常の研究授業に対する事前・事後も含めた指導からの成果と課題を教職員間で共有

4　学校・学年だより等の積極的な活用による研究成果等に関する情報提供
〇学校評議員、学校関係者評価委員等を中心に研究の取組を公開し、その意見を生かし研究を推進